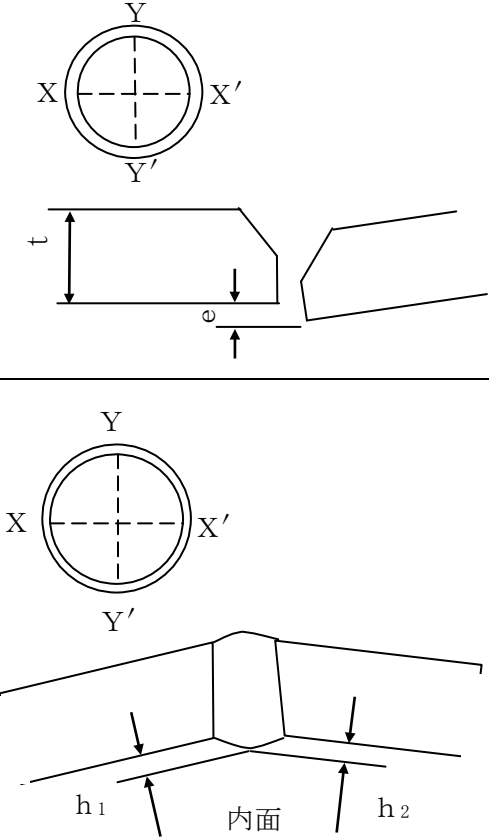
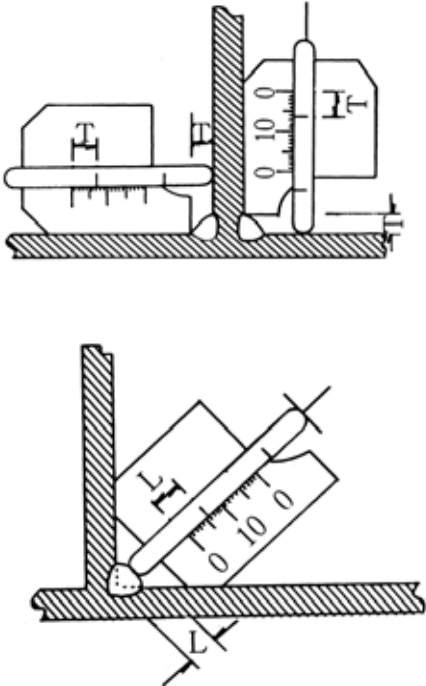
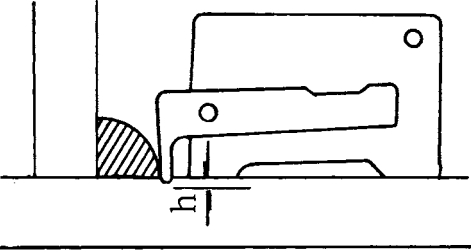


測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>テーパ付き直管同士の溶接箇所全数を測定する。</p>		
<p>溶接線全長にわたって目視により点検し、懸念のある部分はゲージにより点検する。</p>		

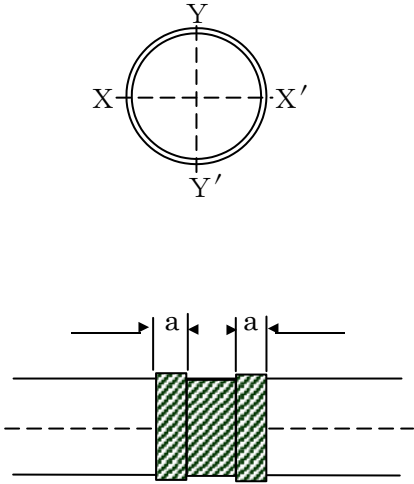
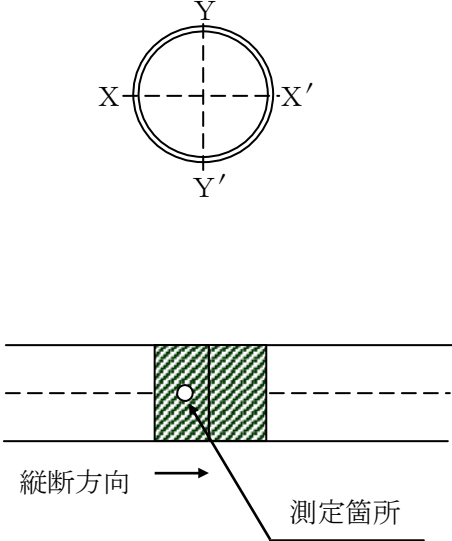
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
8 管 水 路 工 事	すみ肉溶接 アンダカット (h)	0.5<h<1.0 の時アンダカットの長さが板厚よりも大きいものがあるのはならない。 h≥1.0 のアンダカットはあってはならない。	
	ピット	ピットの直径が1mm以下では溶接長さ1mにつき3個までを許容する。 しかし直径が1mmを超えるものがあるのはならない。	
	ビード外観	ビード表面に極端な不揃い部分があってはならない。	
	その他	溶接部及びその付近には、割れ、アークストライクの跡、有害と認められる程度のオーバーラップ、ジグ跡などの欠陥があってはならない。	
放射線透過試験	別表オ参照	別表オの判定基準参照	
素地調整	外観	水分、錆、油等があってはならない。	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
溶接線全長にわたって目視により点検し、懸念のある部分はゲージにより点検する。		
溶接線全長にわたって目視により点検する。		
周継手溶接の場合、全溶接線長の5%を撮影するものとする。 すみ肉溶接の場合は特記仕様書による。		全溶接線長とは、溶接箇所全ての溶接線長の総計をいう。
現場塗装全面を点検する。		

工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
8 管 水 路 工 事	エポキシ樹脂塗装	外観	塗装表面に異物の混入、塗りむら、塗りもれなどがあってはならない。	
		膜厚	最低膜厚は別表カ又は特記仕様書に規定する膜厚を下回ってはならない。	
		ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。	
		付着性	付着不良の欠陥があってはならない。	

測定基準	測定箇所標準図	摘要						
現場塗装全面を点検する。		JIS G 3443-4に準じる。						
現場塗装箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 12 点測定する。(天地左右、縦断方向に各 3 点)	<p>電磁微厚計などで測定する。</p>							
現場塗装全面を点検する。	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール検査を行う。</p> <table border="1" data-bbox="719 1301 1305 1525"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="719 1301 1305 1339">標準試験電圧</th> </tr> <tr> <th data-bbox="719 1339 1011 1413">塗膜の厚さ (mm)</th> <th data-bbox="1011 1339 1305 1413">試験電圧 (DC V)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="719 1413 1011 1525">0.5 以上</td> <td data-bbox="1011 1413 1305 1525">2,000~2,500</td> </tr> </tbody> </table>	標準試験電圧		塗膜の厚さ (mm)	試験電圧 (DC V)	0.5 以上	2,000~2,500	
標準試験電圧								
塗膜の厚さ (mm)	試験電圧 (DC V)							
0.5 以上	2,000~2,500							
	柄のついた鋼製両刃のへら(全長約 200 mm程度)を用いてはつきり、付着の良否を点検する。							

工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
8 管 水 路 工 事	ジョイントコート	焼損	あってはならない。	
		両端のめくれ	有害な欠陥となる大きなめくれがあってはならない。	
		ふくれ	ジョイントコートの両端から 50mm 以内にふくれがあってはならない。	
		工場被覆部との重ね代 (a)	片側 50mm 以上	
		ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。	
		膜厚	別表カのとおり 1.5mm 以上 ただし、加熱収縮後の厚さとする。	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>ジョイントコート全数を点検する。</p>		
<p>ジョイントコート全数全面を点検する</p>	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール検査を行う。試験電圧は10,000～12,000Vを標準とする。</p>	
<p>ジョイントコート施工箇所 10箇所につき 1箇所測定するものとし、1箇所につき 4点測定する。</p>		

工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。 管 種		
	ダクタイル鋳鉄管	J I S G 5526(ダクタイル鋳鉄管)	J D P A G 1027(農業用水用ダクタイル鋳鉄管)	
	鋼管	J I S G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管-第1部：直管)	W S P A-101(農業用プラスチック被覆鋼管)	
	強化プラスチック管	J I S A 5350(強化プラスチック複合管)	F R P M K 1111-2006(強化プラスチック複合管内圧管 フィラメントワインディング成形法)	
	F R P M K 2111-2006(強化プラスチック複合管内圧管 遠心力成形法)			
たわみ率	締	なし	± 3 %	± 5 %
		I	± 3 %	± 5 %
	固め 程	I 礫質土	± 4 %	± 5 %
		II	± 4 %	± 5 %

測定基準	測定箇所標準図	摘要
------	---------	----

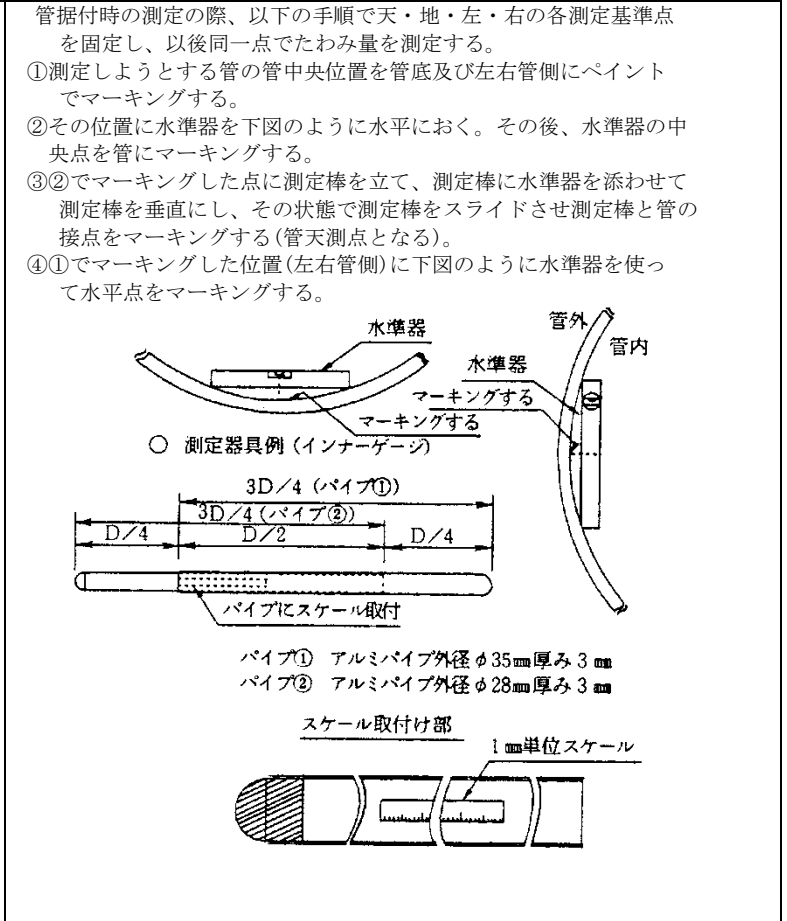
管据付時の測定の際、以下の手順で天・地・左・右の各測定基準点を固定し、以後同一点でたわみ量を測定する。

①測定しようとする管の管中央位置を管底及び左右管側にペイントでマーキングする。

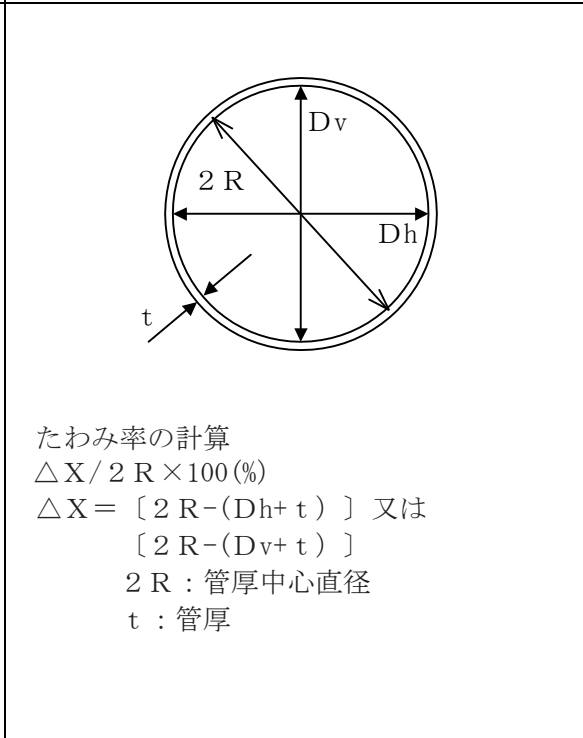
②その位置に水準器を下図のように水平におく。その後、水準器の中央点を管にマーキングする。

③②でマーキングした点に測定棒を立て、測定棒に水準器を添わせて測定棒を垂直にし、その状態で測定棒をスライドさせ測定棒と管の接点をマーキングする(管天測点となる)。

④①でマーキングした位置(左右管側)に下図のように水準器を使って水平点をマーキングする。



施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。上記未満は 2箇所測定する。測定は定尺管の中央部とする。測定時期は管据付時(接合完了後)、管頂埋戻時及び埋戻完了時とする。なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻完了時点とする。

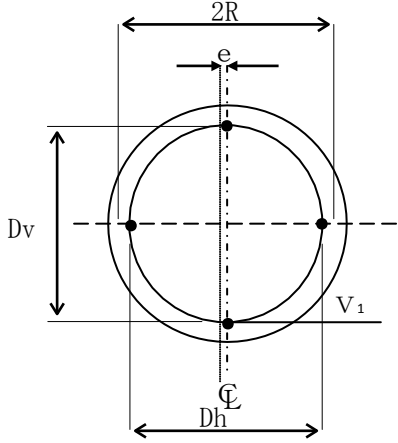
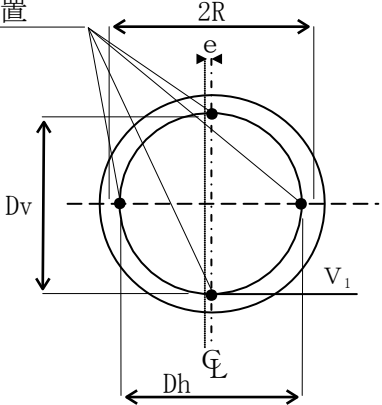


管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。

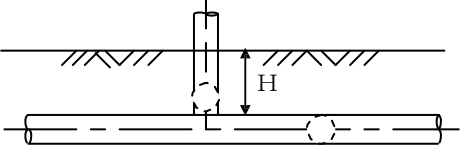
締固め程度は次のとおりである。

締固めの程度	仕上り程度
締固めなし	締まった状態を指し、いわゆる膨軟状態ではない。
締固め I	締固め度の 85%以上
締固め II	締固め度の 90%以上

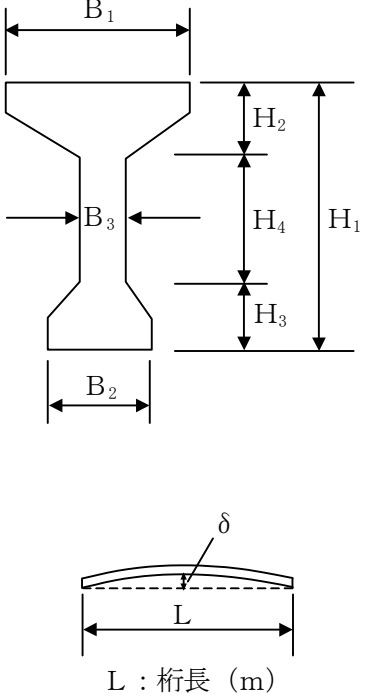
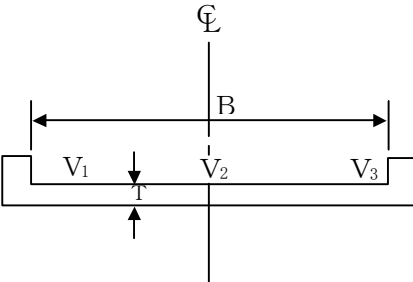
工 種		項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
8 管 水 路 工 事	シールド工事 (一次覆工) コンクリート セグメント 鋼製セグメント	基準高(V)	± 30	± 50
		中心線のズレ(e)	直線部 ± 65 曲線部 ± 100	直線部 ± 100 曲線部 ± 150
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150
		たわみ率	± 3%	± 5%
	シールド工事 (二次覆工) 既製管覆工 推進工事	基準高(V)	既製管挿入工 ± 20 推進工事 ± 30	± 30 ± 50
		中心線のズレ(e)	± 65	± 100
		ジョイント間隔(Z)	別表イ、ウ及び別表エ 参照	別表イ、ウ及び別表エ参 照
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200
		たわみ率	± 3%	± 5%

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>基準高、中心線のズレ(直線部)、たわみ率については施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mに 1箇所割合で測定する。 上記未満は 2箇所測定する。</p>	 <p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	<p>V の測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は完了時とする。</p>
<p>基準高、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mに 1箇所割合で測定する。 上記未満は 2箇所測定する。 ジョイント間隔については 1本毎に測定する。</p>	<p>ジョイント間隔 測定位置</p>  <p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	<p>V の測定は管底 (V_1) を原則とし、測定時期は完了時とする。 基準高 (V) の () は推進工事の場合。</p>
<p>施工延長おおむね 50mにつき 1箇所を測定する。 上記未満は 2箇所測定する。 測定時期は、管据付時、注入完了時とする。</p>	<p>基準高 (V) は、V_1 を測定し管理する。 たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = [2R - (Dh + t)]$ 又は $[2R - (Dv + t)]$ $2R$: 管厚中心直径 t : 管厚</p>	

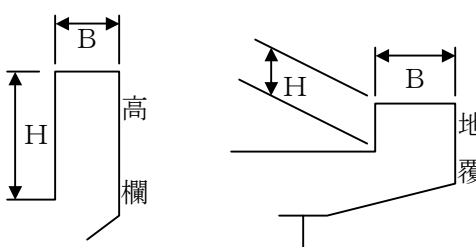
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
9 畑 か ん 施 設 工 事	スプリンクラー 埋設深(H)	⊕ 65 ⊖ 35	⊖ 50

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>構造図の寸法標示箇所を測定する。</p>		

工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
10 橋 梁 工 事	コンクリート桁 〔ポストテン ション桁〕	幅(B)	上幅 (B ₁) ⊕ 7 ⊖ 3 下幅 (B ₂ 、B ₃) ⊕ 3	⊕ 10 ⊖ 5 ⊕ 5
		高さ(H)	⊕ 7 ⊖ 3	⊕ 10 ⊖ 5
		桁長(L)	⊕ 10	⊕ 15
		横方向の最大曲がり (δ)(桁長 10.5m未満)		1.5L - 6
	横方向の最大曲がり (δ)(桁長 10.5m以上)		10	
	鉄筋コンクリート 床版工	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20
		幅(B)	⊕ 20	⊕ 30
厚さ(T)		⊕ 13 ⊖ 7	⊕ 20 ⊖ 10	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>幅、高さについては桁の両端部、中央部の3箇所を全桁数測定する。 桁長は各桁で、横方向の最大曲がりについてはプレストレスング後に、全桁数測定する。</p>	 <p style="text-align: center;">L : 桁長 (m)</p>	
<p>基準高は1径間当たり2箇所(支点付近)で測定する。 幅は1径間当たり3箇所測定する。 厚さは、おおむね 10 m²に1箇所の割合で測定する。</p>		<p>コンクリート橋に適用する。</p>

工 種		項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
10 橋 梁 工 事	鉄筋コンクリート 高欄及び地覆工	高欄幅(B)	⊕ 13	⊖ 20
		高欄高さ(H)	⊕ 20	⊖ 30
		地覆幅(B)	⊕ 13	⊖ 20
		地覆高さ(H)	⊕ 13	⊖ 20

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>1 径間当たり両端と中央部の両側を測定する。</p>		

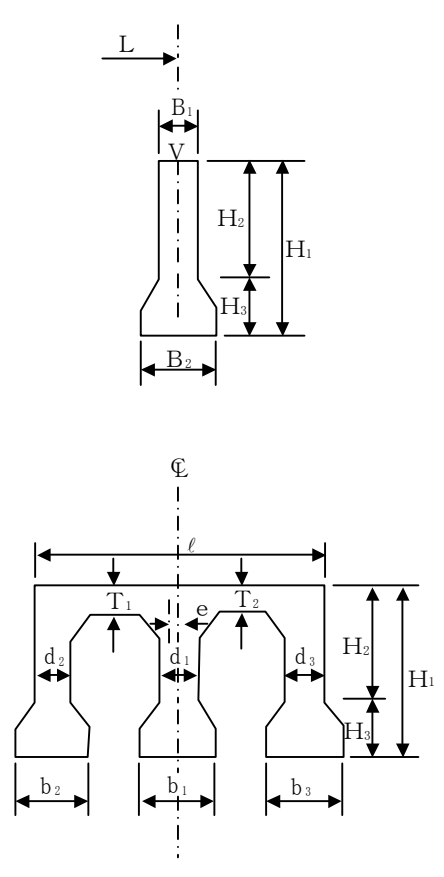
工 種		項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
11 橋 梁 下 部 工 事	橋台工	敷幅(B)	⊕ 30	⊖ 50
		控壁の厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20
		高さ(H)	⊕ 30	⊖ 50
		中心線のズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50
		天端長(L ₁)	⊕ 30	⊖ 50
		敷長(L ₂)	⊕ 30	⊖ 50
		胸壁間距離(L ₃)	⊕ 20	⊕ 30
		橋台沓部	「1 共通工事の精度を要するもの」の項に定めるところによる	同 左

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>		<p>2スパン以上の場合の胸壁間距離は「橋脚工」の橋脚中心間距離において管理する。</p>
<p>同 左</p>	<p>同 左</p>	

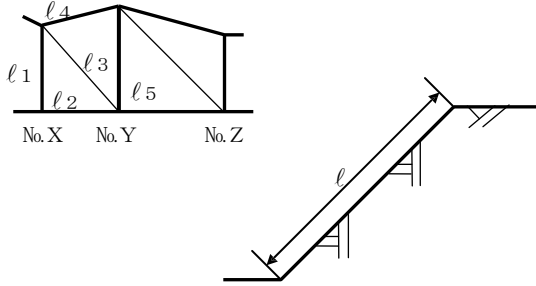
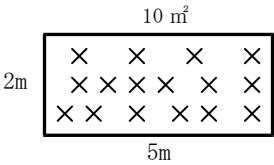
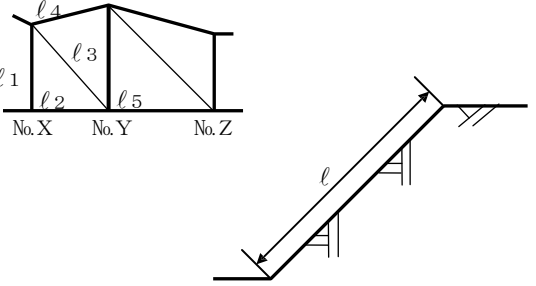
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)				
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工 〔張出式 重力式 半重力式〕	基準高(V)	⊕ 20				
		天端長(l_1)	⊖ 50				
		敷長(l_2)	⊖ 50				
		天端幅(B_1)	⊖ 20				
		敷幅(B_2)	⊖ 50				
		高さ(H)	⊖ 50				
		橋脚中心間距離(L)	⊕ 30				
		中心線のズレ(e)	⊕ 50				
⊕ 15	⊕ 30	⊕ 30	⊕ 20 ⊖ 13	⊕ 30	⊕ 30	⊕ 20	⊕ 30

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>	<p>The diagram illustrates two cross-sectional views of a bridge pier. The top view shows a central vertical axis labeled 'L'. Dimensions include top width B_1, bottom width B_2, side width B_3, and bottom width B_4. Heights are marked as H_1, H_2, H_3, and H_4. The bottom view shows a central vertical axis labeled 'C'. Dimensions include top length l_1, bottom length l_2, side length l_3, and an offset e. The same height dimensions H_1, H_2, H_3, and H_4 are also present.</p>	

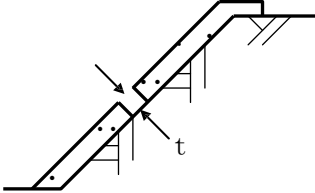
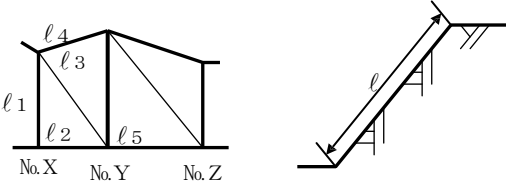
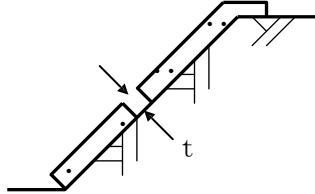
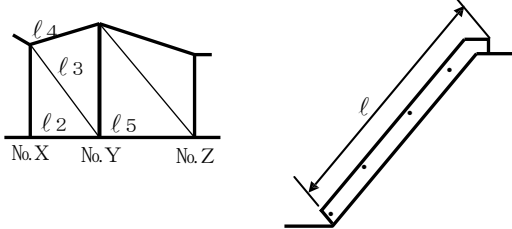
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工(ラーメン式)	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20
		天端長(ℓ)	⊕ 15	⊖ 20
		天端幅(B_1)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20
		中間幅(d)	⊕ 15	⊖ 20
		基礎幅(B_2 、b)	⊕ 30	⊖ 50
		高さ(H)	⊕ 30	⊖ 50
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20
		橋脚中心間距離(L)	⊕ 20	⊕ 30
		中心線のズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>	 <p>The figure contains two technical drawings. The top drawing shows a cross-section of a bridge pier with a central vertical axis. It includes dimensions: L (horizontal distance from axis to measurement point), B_1 (width at top), V (vertical distance from top to measurement point), H_2 (height from measurement point to top of pier), H_1 (total height from measurement point to top of pier), H_3 (height from measurement point to base of pier), and B_2 (width at base). The bottom drawing shows a plan view of a three-span bridge deck with a central vertical axis. It includes dimensions: ϕ (width of deck), ℓ (span length), T_1 and T_2 (top width of spans), d_2, d_1, and d_3 (widths at different levels), b_2, b_1, and b_3 (widths at different levels), H_2 and H_1 (heights), H_3 (height from measurement point to base), e (width between spans), and l_1 (width of central span).</p>	

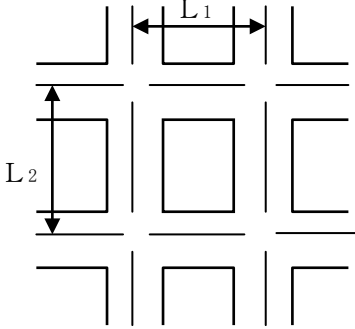
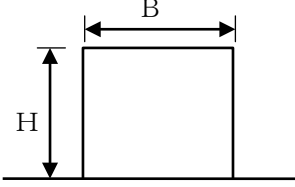
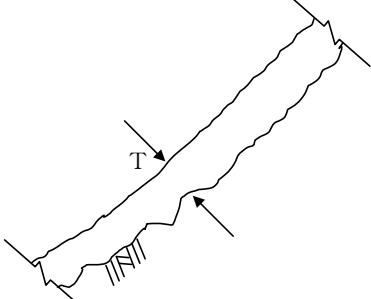
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
12 法 面 保 護 工 事	ラス張 植生マット 植生シート 繊維ネット 張芝 人工張芝	面積(A)	施工面積 \geq 設計面積
		アンカーピン数 アンカーピン及び 止め釘	ラス張 $\phi 9 (D10) \times L = 200 \text{ mm}$ 1.5 本/ m^2 以上 $\phi 16 (D16) \times L = 400 \text{ mm}$ 0.3 本/ m^2 以上 植生マット、繊維ネット 肥料袋付 6 本/ m^2 以上 肥料袋無 3 本/ m^2 以上
	種子散布	面積(A)	施工面積 \geq 設計面積

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。</p>		<p>l_n : 測線をいう。</p>
<p>ラス張は 200 m²に 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。</p> <p>植生マット及び繊維ネットは 500 m²に 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。</p>		<p>(参考) 規格値に示す値は標準であることから、工法により標準本数が異なる場合は、別途監督職員と協議する。</p>
<p>全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。</p>		<p>l_n : 測線をいう。</p>

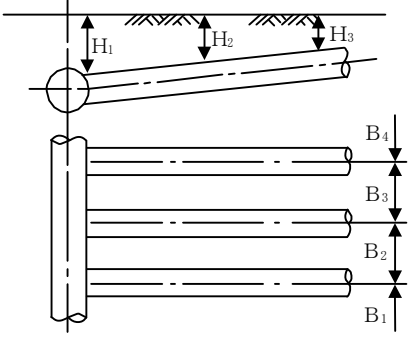
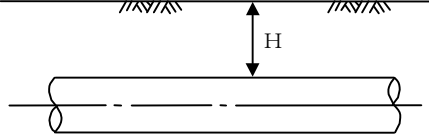
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
12 法 面 保 護 工 事	客土吹付	厚さ(T)	平均厚さ \geq 設計厚さ ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。
		面積(A)	施工面積 \geq 設計面積
	植生基材吹付	厚さ(T)	平均厚さ \geq 設計厚さ 測定値は 設計厚 5 cm未満 ⊖ 10% " 5 cm以上 ⊖ 20% ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。
		面積(A)	施工面積 \geq 設計面積

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>施工面積 500 m²に1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。 3 設計吹付厚さ5 cm以上には適用しない。
<p>全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。</p>		<p>l_n : 測線をいう。</p>
<p>施工面積 200 m²に1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。
<p>全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。</p>		<p>l_n : 測線をいう。</p>

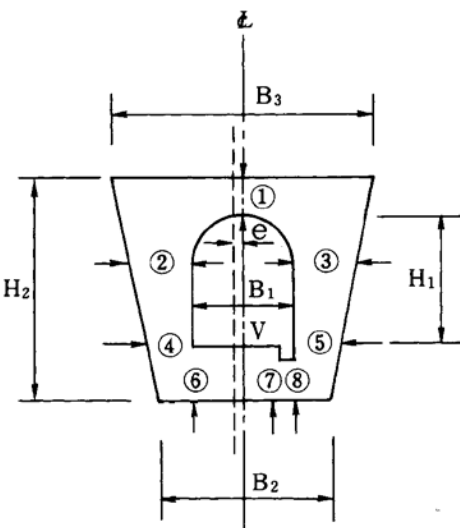
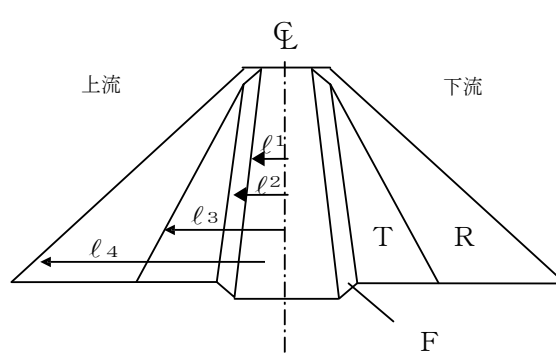
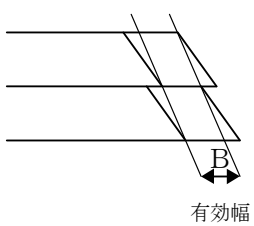
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
12 法 面 保 護 工 事	吹付枠	梁延長	施工延長 ≥ 設計延長
		梁間隔(L)	⊕ L/10
		梁断面(H)(B)	⊖ 20
	コンクリート吹付 モルタル吹付	吹付厚さ(T)	設計厚 5 cm 未満 ⊕ 7 " 5 cm 以上 ⊕ 15 ⊖ 10 ⊖ 20 (ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。)

測定基準	測定箇所標準図	摘要
全施工延長について展開図により測定する。		
施工面積 200 m ² に1箇所の割合で測定する。		
施工面積 200 m ² に1箇所の割合で測定する。		
施工面積おおむね100m ² につき1箇所の割合でコア採取又は削孔などして測定する。 上記未満は2箇所測定する。		施工端部、岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。

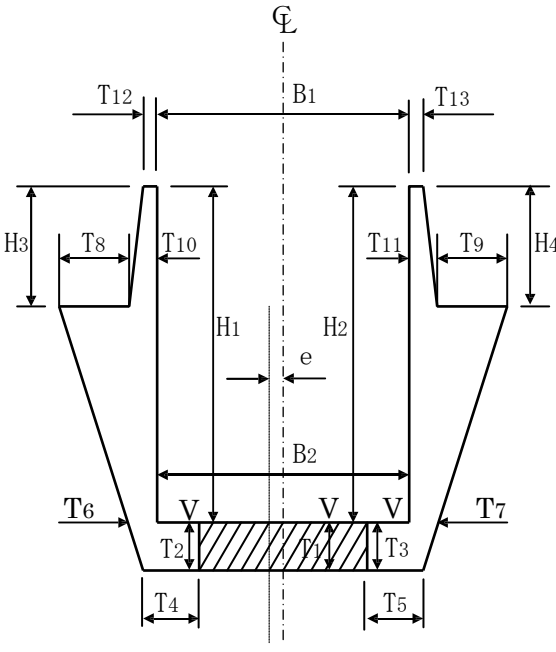
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
13 暗 渠 排 水 工 事	吸水渠	布設深(H)	⊕ 100 ⊖ 50 ⊖ 75
		間隔(B)	⊕ 500 ⊕ 750
		施工延長	⊖ 0.2%、 ただし延長 500m以下 ⊖ 1,000
	集水渠(支線) 導水渠(幹線)	布設深(H)	⊕ 100 ⊖ 50 ⊖ 75
		施工延長	⊖ 0.2%、 ただし延長 500m以下 ⊖ 1,000

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>上、下流端の2箇所を測定する。 ただし、1本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。</p>		
<p>施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。</p>		

工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)		
14 フ イ ル ダ ム 工 事	監査廊 (暗渠タイプ)	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	
		幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15 ただし、 B ₂ 、B ₃ ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ(T)	⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 25 ただし、H ₂ ⊖ 25	⊖ 40	
		中心線のズレ(e)	直線部	⊕ 50	直線部 ⊕ 75
			曲線部	⊕ 100	曲線部 ⊕ 150
		スパン長	直線部	⊕ 13	直線部 ⊕ 20
曲線部	⊕ 20		曲線部 ⊕ 30		
施工延長			⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150		
堤体盛土	ゾ ン 幅	遮水ゾーン		ℓ ₁ ⊕ 500 ⊖ 0	
		フィルターゾーン		ℓ ₂ ⊕ 500 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上	
		トランジション ゾーン		ℓ ₃ ⊕ 1,000 ⊖ 500	
		ロックゾーン		ℓ ₄ ⊕ 1,000 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>1. 基準高、幅、厚さ、高さについては1スパンにつき1箇所の割合で測定する。</p> <p>2. 厚さはコンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑧の各点で測定する。</p> <p>3. 中心線のズレ直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未满是2箇所測定する。</p>	 <p>The diagram shows a trapezoidal pipe cross-section with a central vertical axis labeled ϵ. The top width is B_3, the bottom width is B_2, and the total height is H_2. The height from the bottom to the top of the inner structure is H_1. The inner structure has a top width of B_1 and a height of e. The vertical distance from the bottom to the top of the inner structure is V. Eight measurement points are marked with circled numbers 1 through 8. Points 1, 2, 3, 4, and 5 are on the top and side walls, while points 6, 7, and 8 are on the bottom wall.</p>	
<p>ゾーン幅については施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。</p>	 <p>The diagram shows a trapezoidal pipe cross-section with a central vertical axis labeled ϵ. The top width is ϵ. The diagram is divided into four zones: C (遮水ゾーン), F (フィルターゾーン), T (トランジションゾーン), and R (ロックゾーン). The zones are labeled '上流' (upstream) and '下流' (downstream). The lengths of the zones are labeled l_1, l_2, l_3, and l_4. The zones are labeled T and R on the right side, and F at the bottom.</p> <p>注) ゾーン区分 C : 遮水ゾーン F : フィルターゾーン T : トランジションゾーン R : ロックゾーン</p>  <p>The small diagram shows a trapezoidal shape with a horizontal line at the top and a vertical line at the bottom, labeled '有効幅' (effective width) and B.</p>	

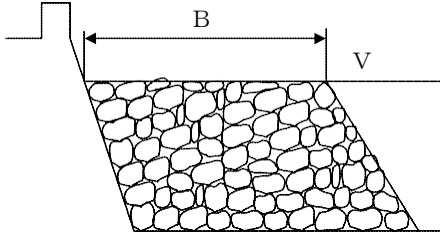
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
14 フ イ ル ダ ム 工 事	洪水吐 基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30
	幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25
	厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13 ただし、 T ₁ ～T ₉ ⊖ 13	⊖ 20
	高さ(H)	⊕ 15	⊖ 25
	中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100
	スパン長	直線部 ⊕ 13 曲線部 ⊕ 20	直線部 ⊕ 20 曲線部 ⊕ 30
	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。</p> <p>中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。</p>	 <p style="text-align: center;">*斜線部はインバート</p>	<p>インバートと側壁が一体構造の場合、測定箇所は別途定めるものとする。</p>

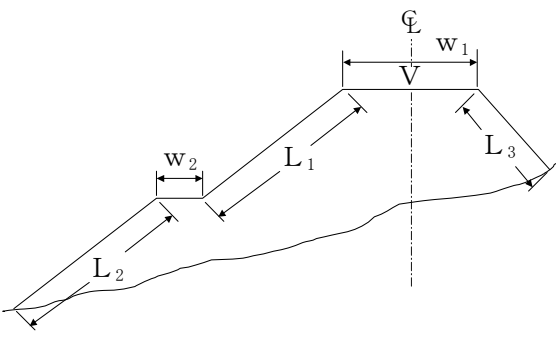
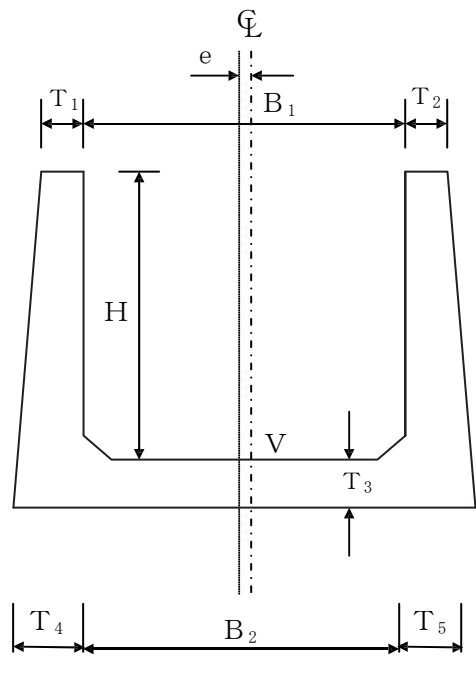
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
15 頭 首 工 工 事	本体	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30
		幅(B)	天端幅等 ⊕ 20	⊖ 30
		エプロン部 ⊕ 40	⊖ 60	
		厚さ(T)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁、エプロン部等	⊖ 30
		高さ(H)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁等	⊖ 30
	長さ(L)	⊕ 100 ⊖ 65 導流壁、エプロン部	⊖ 100	
	護床ブロック (異形ブロック)	基準高(V)	⊕ 100	⊕ 150
面積(A)			⊖ 0.2%	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>		
<p>基準高については施工面積 100 m²につき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。</p>		

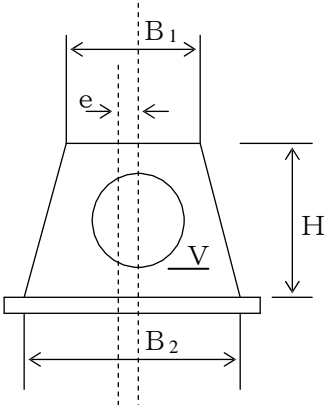
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
16 海 岸 河 川 工 事	捨石工 消波ブロック	基準高(V)	⊕ 200 捨石工は特記仕様書による	⊖ 300 捨石工は特記仕様書による
		幅(B)	⊕ 200	⊖ 300

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>基準高、幅については施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で測定する。</p>		

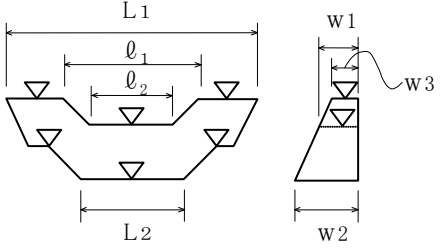
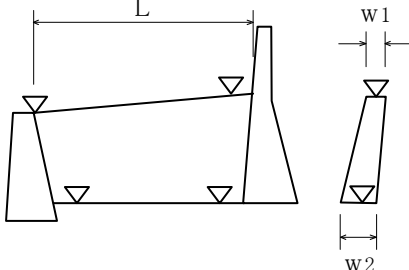
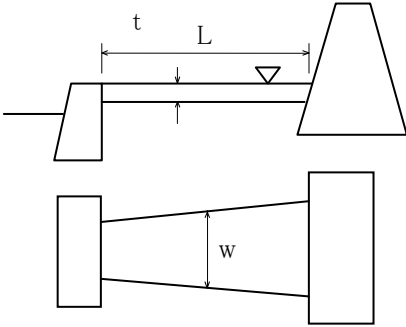
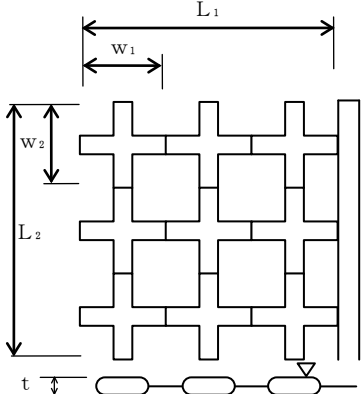
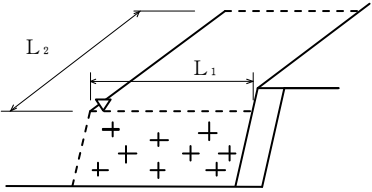
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
17 た め 池 改 修 工 事	堤体工	基準高(V)	± 65	± 100
		堤幅(W)	天端幅、小段幅等 ⊖ 65 (鋼土 ⊕ 300、⊖ 0)	⊖ 100
		法長(L)	⊖ 65	⊖ 100
		施工延長		⊖ 200
	洪水吐工	基準高(V)	± 20	± 30
		幅(B)	± 20	± 30
		厚さ(T)	± 13	± 20
		高さ(H)	± 20	± 30
		中心線のズレ(e)	直線部 ± 35	直線部 ± 50
			曲線部 ± 65	曲線部 ± 100
スパン長(L)		直線部 ± 13	直線部 ± 20	
	曲線部 ± 20	曲線部 ± 30		
施工延長 (又は長さ)		⊖ 150		

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>線的なものについては施工延長おおむね 20 mにつき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 鋼士の幅は盛土高 1m 毎に管理する。 2 測定は原則として、水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。 3 出来形測定と写真は同一箇所で行う。 4 出来形図は横断面図面を利用して作成する。
<p>基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレについては施工延長 1 スパンにつき 1 箇所の割合で測定する。 箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>		<p>スパン長の標準を 9 m とした場合。</p>

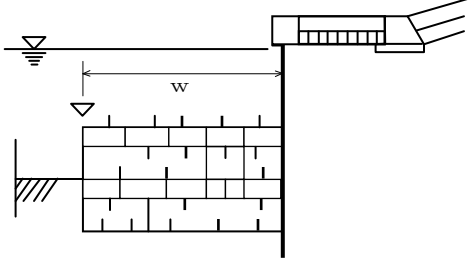
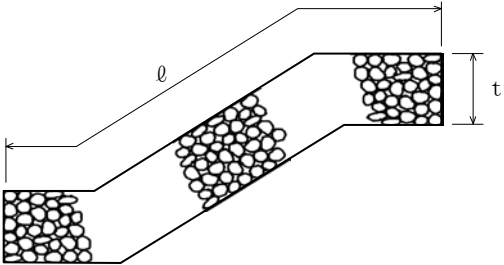
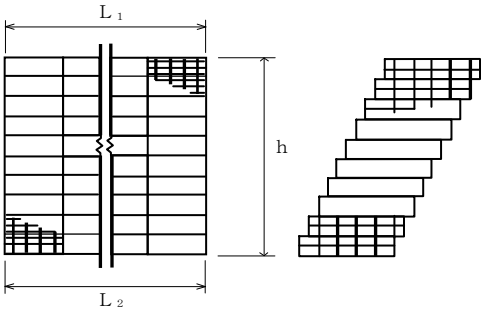
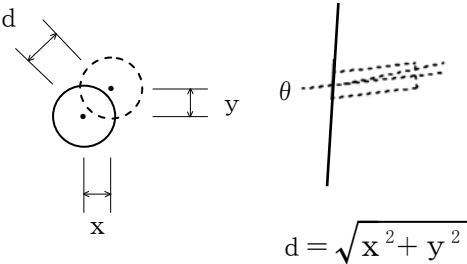
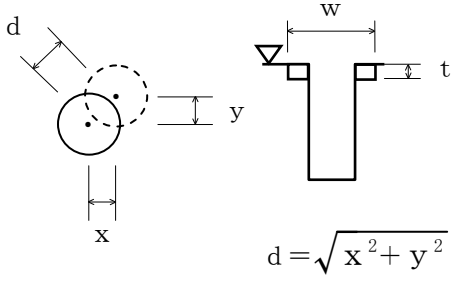
工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
17 た め 池 改 修 工 事	樋管工 同上付帯構造物 (土砂吐ゲート等)	基準高(V)	± 20	± 30
	幅(B)	± 20 - 13	± 20 - 13	- 20
	厚さ(T)	± 20 - 13	± 20 - 13	- 20
	高さ(H)	± 13	± 13	- 20
	中心線のズレ(e)	直線部 ± 35 曲線部 ± 65	直線部 ± 35 曲線部 ± 65	直線部 ± 50 曲線部 ± 100
	施工延長			- 150

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレについては施工延長 10mにつき 1 箇所の割合で測定する。</p> <p>ジョイント間隔については、1 本毎に測定する。</p> <p>箇所単位のものについて表示箇所を測定する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 基準高(V)は管底を原則とする。 2 プレキャストコンクリート製品使用の場合である。 3 底樋がトンネルの場合は、土木工事施工管理基準 5 水路トンネル工事の水路トンネルに準ずる。 4 斜樋等付帯構造物は土木工事施工管理基準 1 共通工事のコンクリート付帯構造物に準ずる。ただし、基準高(V)は、取水孔(ゲート中心)の標高とし、高さ(H)は斜面直角方向とする。

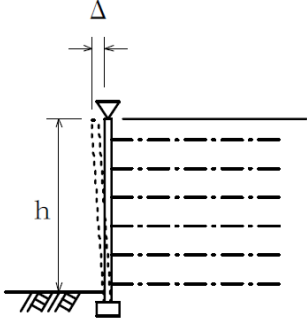
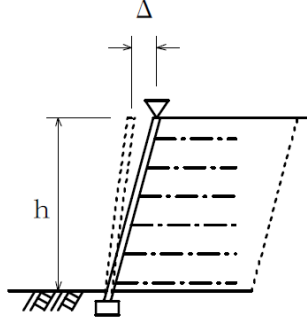
工 種		項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
18 地 す べ り 対 策 工 事	コンクリート 堰堤本体工	基準高▽	—	± 30	
		天端部 w_1, w_3 堤幅 w_2	—	⊖ 30	
		水通しの 幅 l_1, l_2	—	± 50	
		堤長 L_1, L_2	—	⊖ 100	
	コンクリート 側壁工	基準高▽	—	± 30	
		幅 w_1, w_2	—	⊖ 30	
		長さ L	—	⊖ 100	
	水叩工	基準高▽	—	± 30	
		幅 w	—	⊖ 100	
		厚さ t	—	⊖ 30	
		延長 L	—	⊖ 100	
	根固めブロック工	層積	基準高▽	—	± 100
			厚さ t	—	⊖ 20
			幅 w_1, w_2	—	⊖ 20
延長 L_1, L_2			—	⊖ 200	
乱積		基準高▽	—	± t / 2	
		延長 L_1, L_2	—	⊖ t / 2	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
図面の表示箇所で測定。		
<p>1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。</p>		
<p>基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。</p>		
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。</p>		
<p>幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。</p>		
<p>1施工箇所毎。</p>	 <p style="text-align: center;">t は根固めブロックの高さ</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。</p> <p>1施工箇所毎。</p>		

工 種		項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)
18 地 す べ り 対 策 工 事	沈床工	基準高▽	—	± 150
		幅 w	—	± 300
		延長 L	—	⊖ 200
	かご工 (じゃかご工)	法長 $\phi < 3\text{m}$	—	⊖ 50
		法長 $\phi \geq 3\text{m}$	—	⊖ 100
		厚さ t	—	⊖ 50
	かご工 (ふとんかご工)	高さ h	—	⊖ 100
		延長 L_1, L_2	—	⊖ 200
	集排水ボーリング 工	削孔深さ ϕ	—	設計値以上
		配置誤差 d	—	100
		せん孔方向 θ	—	± 2.5度
	集水井工	基準高▽	—	± 50
		偏心量 d	—	150
		長さ L	—	⊖ 100
		巻立て幅 w	—	⊖ 50
巻立て厚さ t		—	⊖ 30	

測定基準	測定箇所標準図	摘要
1組毎。		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
全数。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

工 種	項 目	(参 考) 管理基準値 (mm)	規 格 値 (mm)	
19 補 強 土 壁 工 事	補強土壁工 (補強土[テールア ルメ]壁工法)	基準高▽	—	⊕ 50
	(多数アンカー式 補強土工法)	高さ h < 3m	—	⊖ 50
	(ジオテキスタイル を用いた補強土工 法)	高さ h ≥ 3m	—	⊖ 100
	鉛直度 Δ	—	—	⊕ 0.03hかつ ⊕ 300以内
	控え長さ	—	—	設計値以上
	延長L	—	—	⊖ 200

測定基準	測定箇所標準図	摘要
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。</p>		
<p>1施工箇所毎。</p>		

別表ア 基礎杭打工 偏心管理基準値

(単位：mm)

杭 径	木 杭		プレキャストコンクリート杭	
	(参 考) 管理基準値	規 格 値	(参 考) 管理基準値	規 格 値
60	60	225		
90	90	225		
120	120	225		
150	150	225		
180	180	225		
210	210	225		
200			33	50
250			41	62
300			50	75
350			58	87
400			66	100
450			66	100
500			66	100
550			—	—
600			66	100
700			66	100
800			66	100
900				
1,000				
1,200				
1,500				
1,800				
2,000				
2,500				
3,000				

(単位：mm)

杭 径	鋼 管 杭		場 所 打 杭	
	(参 考) 管理基準値	規 格 値	(参 考) 管理基準値	規 格 値
60				
90				
120				
150				
180				
210				
200				
250				
300				
350				
400	66	100		
450	66	100		
500	66	100		
550	66	100		
600	66	100		
700	66	100		
800	66	100	66	100
900	66	100	—	—
1,000	66	100	66	100
1,200			66	100
1,500			66	100
1,800			66	100
2,000			66	100
2,500			66	100
3,000			66	100

別表イ 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

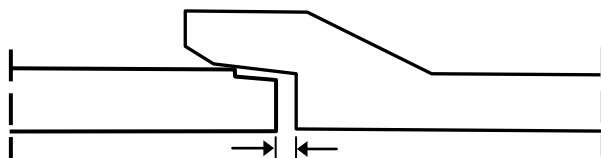
呼び径 (mm)	JIS A 5372 RC 管 (B形管)				JIS A 5372 RC 管 (NB形管)	
	(参考) 管理基準値	規 格 値		(参考) 管理基準値	規 格 値	
		8 管水路工事 良質地盤	8 管水路工事 良質地盤			
150	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0	
200	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0	
250	+13 0	+20 0	+11 0	+15 0	+23 0	
300	+12 0	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0	
350	+12 0	+18 0	+10 0	+15 0	+23 0	
400	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0	
450	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0	
500	+14 0	+21 0	+11 0	+19 0	+29 0	
600	+15 0	+23 0	+13 0	+19 0	+29 0	
700	+14 0	+21 0	+12 0	+19 0	+29 0	
800	+16 0	+24 0	+13 0	+19 0	+29 0	
900	+17 0	+26 0	+15 0	+19 0	+29 0	
1,000	+21 0	+32 0	+18 0	—	—	
1,100	+22 0	+33 0	+19 0	—	—	
1,200	+23 0	+35 0	+21 0	—	—	
1,350	+24 0	+37 0	+22 0	—	—	

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。
 2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合は、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
 なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻完了時点とする。
 4. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。規格値及び管理基準値は下図に示す位置を測定するものとする。
 5. 管の外面から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示すa' b' c' d'とする。

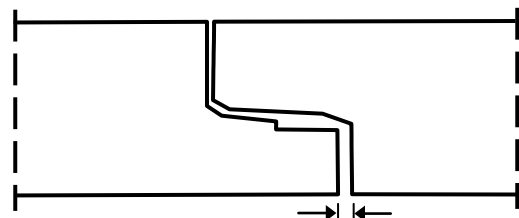
(参考) ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

(1) 内面から計測する場合

B形及びNB形



NC形



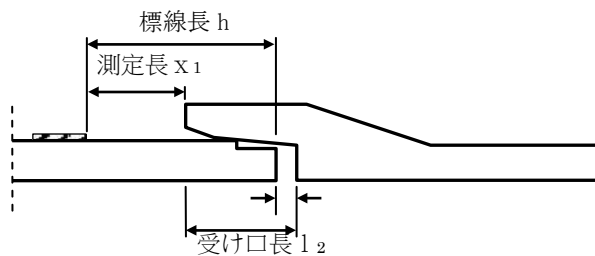
(単位：mm)

J I S A 5372 R C 管 (NC形管)					
呼 び 径 (mm)	標 準 値	(参考) 管 理 基 準 値		規 格 値	
1,500	5	+24	+5	+33	+5
1,650	5	+24	+5	+33	+5
1,800	5	+24	+5	+33	+5
2,000	5	+24	+5	+33	+5
1,500	5	+24	+5	+33	+5
1,800	5	+27	+5	+38	+5
2,000	5	+27	+5	+38	+5
2,500	5	+27	+5	+38	+5
3,000	5	+27	+5	+38	+5

(2) 外面から計測する場合

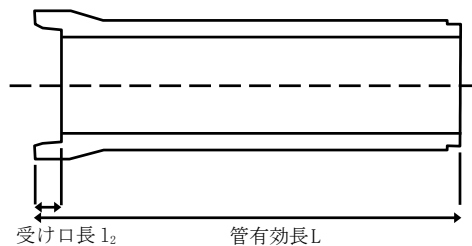
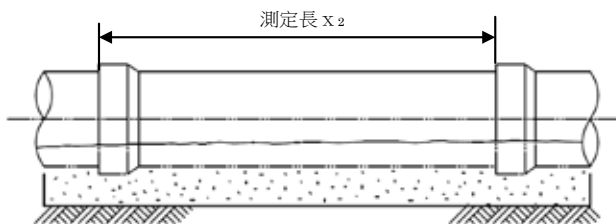
1) 標線による計測

$$\text{ジョイント間隔} = \text{受け口長 } l_2 - (\text{標線長 } h - \text{側線長 } x_1)$$



2) 標線によらない計測 (参考)

$$\text{ジョイント間隔} = \text{受け口長 } l_2 - (\text{管有効長 } L - \text{測定長 } x_2)$$



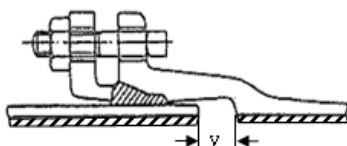
別表ウ 管水路（ダクトイル鋳鉄管）ジョイント間隔管理基準値

（単位：mm）

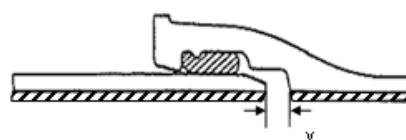
規 格	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027		JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029	
	8 管水路工事 K形		8 管水路工事 T形（直管）	
呼び径(mm)	(参 考) 管理基準値	規 格 値	(参 考) 管理基準値	規 格 値
75	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
100	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
150	+14 0	+19 0	+11 0	+16 0
200	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
250	+14 0	+19 0	+10 0	+14 0
300	+14 0	+19 0	+16 0	+24 0
350	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
400	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
450	+22 0	+31 0	+16 0	+24 0
500	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
600	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
700	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
800	+22 0	+31 0	+20 0	+30 0
900	+22 0	+31 0	+25 0	+40 0
1,000	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,100	+25 0	+36 0	+25 0	+40 0
1,200	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,350	+25 0	+36 0	+25 0	+50 0
1,500	+25 0	+36 0	+25 0	+60 0
1,600	+25 0	+40 0	+25 0	+70 0
1,650	+25 0	+45 0	+25 0	+70 0
1,800	+25 0	+45 0	+25 0	+80 0
2,000	+25 0	+50 0	+25 0	+90 0
2,100	+25 0	+55 0	— —	— —
2,200	+25 0	+55 0	— —	— —
2,400	+25 0	+60 0	— —	— —
2,600	+25 0	+70 0	— —	— —

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所ノ平均値とする。
2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所ノうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下ノ場合は、管ノ外から確認してもよい。また、埋戻後ノ測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
- なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
4. 管ノ外面から測定する場合ノ測定位置は施工管理記録様式に示すa'b'c'd'とする。
5. ダクトイル鋳鉄管ノうち、K形管・T形管ノジョイント間隔測定位置及びU形管ノ標準値は下図ノy寸法である。yノ測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層ノ境界部を目安とする。

K形管



T形管



(単位：mm)

規 格	JIS G 5526・5527 及び JPA G 1027・1029		JIS G 5526・5527 及び JPA G 1029		
	8 管水路工事 T形(異形管)		8 管水路工事 U形		
呼び径(mm)	(参 考) 管理基準値	規 格 値	標準値	(参 考) 管理基準値	規 格 値
75	+11 0	+16 0	—	—	—
100	+11 0	+17 0	—	—	—
150	+11 0	+18 0	—	—	—
200	+10 0	+16 0	—	—	—
250	+10 0	+14 0	—	—	—
300	— —	— —	—	—	—
350	— —	— —	—	—	—
400	— —	— —	—	—	—
450	— —	— —	—	—	—
500	— —	— —	—	—	—
600	— —	— —	—	—	—
700	— —	— —	105	+23 - 5	+32 - 5
800	— —	— —	105	+23 - 5	+32 - 5
900	— —	— —	105	+23 - 5	+32 - 5
1,000	— —	— —	105	+23 - 5	+33 - 5
1,100	— —	— —	105	+23 - 5	+33 - 5
1,200	— —	— —	105	+23 - 5	+33 - 5
1,350	— —	— —	105	+23 - 5	+35 - 5
1,500	— —	— —	105	+23 - 5	+35 - 5
1,600	— —	— —	115	+24 - 5	+33 - 5
1,650	— —	— —	115	+24 - 5	+33 - 5
1,800	— —	— —	115	+24 - 5	+33 - 5
2,000	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,100	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,200	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,400	— —	— —	115	+24 - 5	+36 - 5
2,600	— —	— —	130	+24 - 5	+36 - 5

注) 6. JPA G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

・ T形及びT形用継ぎ輪：300～2,000、K形：300～2,600

JPA G 1029 (推進工法用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

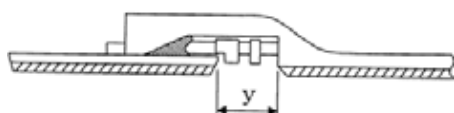
・ T形：250～700、U形：800～2,600

JPA G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) のT形用継ぎ輪のジョイント間隔は、JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形に準じる。

7. JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形、U形のジョイント間隔は、JIS G 5526 (ダクタイル鋳鉄管) のK形、U形に準じる。

8. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値及び管理基準値は標準値に対する値を示している。

U形管



別表エ 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

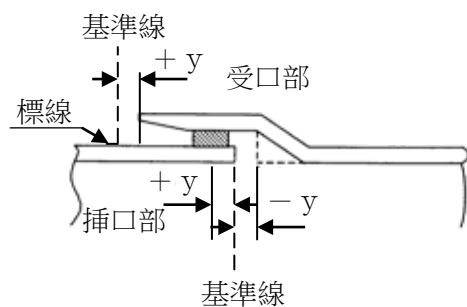
規格	J I S A 5350				
	B 形 及 び T 形				
	呼び径 (mm)	標準値	(参 考) 管 理 基 準 値	規 格 値	
良 質 地 盤				軟 弱 地 盤	
200	0	+10 - 5(0)	+ 33 - 33(0)	+22 -22(0)	
250	0	+10 - 5(0)	+ 33 - 33(0)	+22 -22(0)	
300	0	+10 - 5(0)	+ 38 - 38(0)	+25 -25(0)	
350	0	+10 - 5(0)	+ 38 - 38(0)	+25 -25(0)	
400	0	+10 - 5(0)	+ 43 - 43(0)	+28 -28(0)	
450	0	+10 - 5(0)	+ 43 - 43(0)	+28 -28(0)	
500	0	+15 -10(0)	+ 53 - 52(0)	+35 -34(0)	
600	0	+15 -10(0)	+ 53 - 52(0)	+35 -34(0)	
700	0	+15 -10(0)	+ 53 - 52(0)	+35 -34(0)	
800	0	+15 -10(0)	+ 53 - 52(0)	+35 -34(0)	
900	0	+15 -10(0)	+ 53 - 52(0)	+35 -34(0)	
1,000	0	+20 -15(0)	+ 53 - 51(0)	+35 -33(0)	
1,100	0	+20 -15(0)	+ 53 - 51(0)	+35 -33(0)	
1,200	0	+20 -15(0)	+ 53 - 51(0)	+35 -33(0)	
1,350	0	+20 -15(0)	+ 53 - 51(0)	+35 -33(0)	
1,500	0	+20 -15(0)	+ 53 - 51(0)	+35 -33(0)	
1,650	0	+25 -20(0)	+ 80 - 77(0)	+53 -50(0)	
1,800	0	+25 -20(0)	+ 80 - 77(0)	+53 -50(0)	
2,000	0	+25 -20(0)	+ 95 - 92(0)	+63 -60(0)	
2,200	0	+25 -20(0)	+ 95 - 92(0)	+63 -60(0)	
2,400	0	+25 -20(0)	+113 -110(0)	+75 -72(0)	
2,600	0	+25 -20(0)	+113 -110(0)	+75 -72(0)	
2,800	0	+25 -20(0)	+128 -125(0)	+85 -82(0)	
3,000	0	+25 -20(0)	+128 -125(0)	+85 -82(0)	

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所 の平均値とする。
2. (参考)規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm以下の場合、管の外から測定してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。
なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、施工管理記録様式に示す a' b' c' d' とする。
5. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法 y である。なお、基準線に対し抜け出し側を(+)、入り込み側を(-)とする。また、管理基準値等のうち()内数値は、点線で示した形状の管に適用する。
6. D形の場合は、受口側と挿口側を各々測定する。

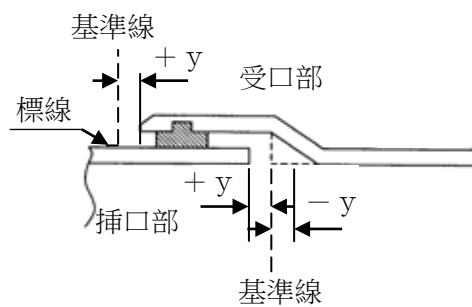
(単位：mm)

規格	J I S A 5350						
	C 形						
	呼び径 (mm)	標準値	(参 考) 管理基準値		規 格 値		
良 質 地 盤					軟 弱 地 盤		
200	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
250	0	+10	0	+ 33	0	+22	0
300	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
350	0	+10	0	+ 38	0	+25	0
400	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
450	0	+10	0	+ 43	0	+28	0
500	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
600	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
700	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
800	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
900	0	+15	0	+ 53	0	+35	0
1,000	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,100	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,200	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,350	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,500	0	+20	0	+ 53	0	+35	0
1,650	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
1,800	0	+25	0	+ 80	0	+53	0
2,000	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,200	0	+25	0	+ 95	0	+63	0
2,400	0	+25	0	+113	0	+75	0
2,600	—	—	—	—	—	—	—
2,800	—	—	—	—	—	—	—
3,000	—	—	—	—	—	—	—

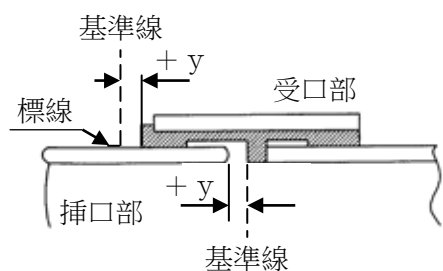
B形



T形

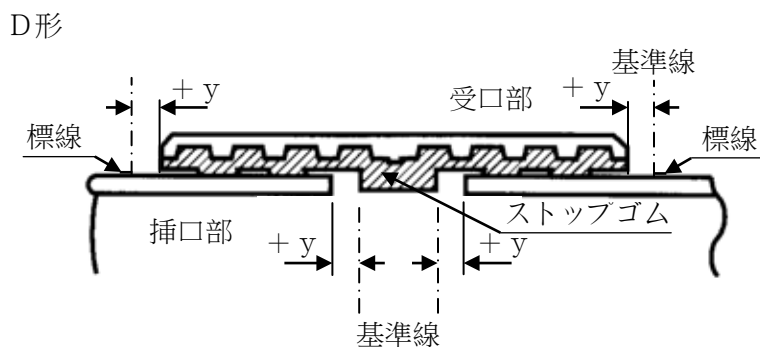


C形



(単位：mm)

規 格	J I S A 5350						
	D 形(S60)						
呼び径 (mm)	標準値	(参 考) 管 理 基 準 値		規 格 値			
				良 質 地 盤		軟 弱 地 盤	
200	0	+ 5	0	+25	-3	+15	-3
250	0	+ 5	0	+25	-3	+15	-3
300	0	+ 5	0	+25	-3	+15	-3
350	0	+ 5	0	+25	-3	+15	-3
400	0	+ 5	0	+35	-3	+25	-3
450	0	+ 5	0	+35	-3	+25	-3
500	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
600	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
700	0	+15	0	+35	-3	+25	-3
800	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
900	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,000	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,100	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,200	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,350	0	+20	0	+40	-5	+30	-5
1,500	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,650	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
1,800	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,000	0	+25	0	+45	-5	+35	-5
2,200	0	+30	0	+50	-5	+40	-5
2,400	0	+30	0	+50	-5	+40	-5



※ 管がストップゴムをつぶしている場合は(-)とする。なお、その場合受口側の値を0とする。

別表オ 放射線透過試験による点検の項目と判定基準

(J I S Z 3050 A基準 準拠)

項 目	判 定 基 準
1. ルートの溶込み不良	目違いのない部分の溶込み不良は、1個の長さ 20 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 25 mm以下を合格とする。
2. 目違いによる溶込み不良	ルートの片側の角が露出している（又は溶融されていない）とき、1個の長さ 40 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長 70 mm以下を合格とする。
3. 内面へこみ	内面へこみは、その部分の写真濃度がこれに接する母材部分の写真濃度を超えない場合は長さに関係なく合格とするが、超える場合には 5 の溶落ちと同様に取り扱う。
4. 融合不良	母材と溶接金属との間の融合不良は、1個の長さ 20 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 25 mm以下を合格とする。溶接パス間の融合不良は、1個の長さ 20 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 30 mm以下を合格とする。
5. 溶落ち	溶落ちは、いかなる方向に測った寸法も1個につき 6 mm又は管の肉厚のいずれか小さい方を超えることなく、連続した溶接長 300 mm当たり最大寸法の合計長さ 12 mm以下を合格とする。
6. 細長いスラグ巻込み	細長いスラグ巻込みは、1個の長さ 20 mm以下、幅 1.5 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 30 mm以下を合格とする。平行に並んだスラグ巻込みは、その間隔が 1 mmを超えていればそれぞれ独立したきずとみなす。
7. 孤立したスラグ巻込み	孤立したスラグ巻込みは、1個の長さ 6 mm以下、幅 3 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 12 mm以下を合格とする。
8. タングステン巻込み	タングステン巻込みは、J I S Z 3104 付属書 4 の第 4 種のきずの像の分類の 4 類以外を合格とする。
9. ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきず	ブローホール及びこれに類する丸みを帯びたきずは、J I S Z 3104 付属書 4 の第 1 種のきずの像の分類の 4 類以外を合格とする。
10. 虫状気孔	虫状気孔（パイプ）は、J I S Z 3104 付属書 4 の第 2 種のきずの像の分類の 4 類以外を合格とする。
11. 中空ビード	中空ビードは、1個の長さ 10 mm以下、連続した溶接長 300 mm当たり合計長さ 50 mm以下で、長さ 6 mmを超えるものは、50 mm以上離れていなければならない。
12. 割れ	割れは、すべて不合格とする。
13. きずの集積	1 から 11 までに掲げるきずの長さの和が管の円周長さの 8 %以下で、かつ、連続した溶接長 300 mm当たり 50 mm以下を合格とする。ただし 2 に掲げるきずを除く。
14. アンダカット	内面のアンダカットは、1個の長さは 50 mm、合計長さは管の円周長さの 15% を超えてはならない。
15. きずの写真濃度	(a) 透過写真上の大きさと合格するきずでも、写真濃度が母材部の写真濃度より著しく高い場合には、不合格とする。 (b) 内面のビードの写真濃度が著しく低い場合には、不合格とする。

別表カ 塗覆装の方式及びその厚さ

種 別	塗 覆 装 方 式	最小厚さ (mm)
直管 テーパ付き 直管 異形管	【内面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管－第4部：内面エポキシ樹脂塗装 (JIS G 3443-4)」 溶剤形エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 (「農業用プラスチック 被覆鋼管 (WSP A- 101-2009)」による)
	【外面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管－第3部：長寿命形外面プラスチック 被覆 (JIS G 3443-3)」	2.0 mm以上
現場溶接部	【内面塗装】 「水輸送用塗覆装鋼管－第4部：内面エポキシ樹脂塗装 (JIS G 3443-4)」 溶剤形エポキシ樹脂塗装	0.5 mm以上 (「農業用プラスチック 被覆鋼管 (WSP A- 101-2009)」による)
	【外面塗装】 「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート (WSP 012-2010)」	プラスチック系の場合 基 材：1.5 mm以上 粘着材：1.0 mm以上
<p>備考1. 制水弁室、スラストブロック等貫通部の外面塗覆装は、原則としてプラスチック被覆とする。 なお、スチフナーについても同様とするが、同部の被覆厚さについては規定しない。 ただし、フランジ等外面部でプラスチック被覆の施工ができない場合は水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装とし、塗膜厚 0.5mm 以上とする。</p> <p>2. 継手部の外面塗覆装は、「水道用塗覆装鋼管ジョイントコート (WSP 012)」プラスチック系を基本とする。なお、施工条件等やむを得ない理由により、プラスチック系が使用できない場合は、ゴム系を使用する。ただし、ゴム系の最小厚さは、1.5mm とする。</p>		